

平成22年度 生活創造大学 スローライフ科提言

私たちスローライフ科では、「すこやかな人生・ゆったり・ゆっくり^{しんこきゅう}真呼吸」をテーマに、急がず、気持ち豊かに、すこやかな人生が歩めるように、という内容でカリキュラムを組み、研修しました。そしてお互いに協力し合い意見を交換し、無理のない、しかも生活に密着したものを題材にして一年間学習しました。

その成果をもとに、次の2点を提言いたします。

1. 「播州織」を多可町の宝として、守り育て発信していく取り組みを

私たちは第2回目の講座におきまして、身近な播州織についてあまりにも知らないことや理解していないことが沢山あることに驚きました。過去のイメージから最近の技術の進化は素晴らしいものがあると認識を新たにしたところです。

そして、この播州織にもっと付加価値を付けても良いのではないかと、ということです。

今や播州織の生地で、ウェディングドレスや美しくデザインされた男性用の冠婚葬祭用カッターシャツまで縫製されています。

そこで、現在、幼稚園児たちの園服に使用されているように学校の「給食衣」も播州織で新調してはどうでしょうか。「給食衣」といえば清潔な「白」というイメージですが、これを播州織の優しい色や柄でイメージを変えてみることは出来ないでしょうか。

子ども達にとっても、これまで培われてきた技術の素晴らしさを幼い時から体感できる良い機会になると思います。

色や柄、デザインも子ども達から募集し、また町内の商店や企業の協力も得て、より身近に播州織を感じてもらうことができ、多可町の魅力アップに繋がるのではないのでしょうか。そして多くの人達の協力によりできた給食衣は、子ども達の物を大切に愛しむ目も養うことが出来ると思うのです。

これが地場産業のひとつの光明になればと提案いたします。

2. 空き施設を利用し、自然を生かした手作り体験の推奨

6回の講座を体験することにより、自然にふれながら日々の生活を楽しむことの素晴らしさに気づくことが出来ました。

この多可町には豊かな自然がいっぱい残っています。この自然を生かした昔からの手作りを大切に伝えていく必要があります。

茶摘みからのお茶作り・こんにゃく芋からこんにゃく作り・大豆からの味噌造り
稲藁から草履作り、しめ縄作り・綿花からの布作り

これらの体験を地域の空き家スペースや町の空き施設を利用し「ふれあい体験講座」を開催してはどうでしょうか。

そして、その施設を拠点とし、これらの手作りを得意とする高齢者の力を発揮、また活躍できる場としていただき、子ども達から大人までがその場所に集い、ふれあうことにより、その地域自体も又、活性化が図れるのではないのでしょうか。